

年度 2008 学期 前期	曜日・校時 木・2	必修選択 選択	単位数 2
授業科目/(英語名)	火山と災害 Volcano and Volcanic Hazards		
対象年次 1・2年次	講義形態 講義	教室	
対象学生(クラス等) 全学部	科目分類 総合科学科目		
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 担当教員：馬越孝道 / Eメールアドレス：umakoshi@nagasaki-u.ac.jp / 研究室：環境科学部本館1階 / TEL:095-819-2766 / オフィスアワー：木曜 14:00-17:00			
担当教員(オムニバス科目等)	高山久明(水産), 小原達朗(教育), 太田保之(医), 高橋和雄(工), 松岡数充(水産), 後藤健介(熱研), 後藤惠之輔(非常勤), 馬越孝道(環境)		
授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標 授業のねらい：日本は災害の国である。また長崎県は災害の多い県のひとつである。とくに、雲仙普賢岳の火山災害は、これに伴う二次災害、復興対策などさまざまな災害の代表でもあり、学生たちがこれらの災害への取り組みを理解することは、これからの日本を担っていく上で必要な知識の一つである。 授業方法：8人の教員がそれぞれ2回(中には1回)の講義を担当する。テキストを中心として、パワーポイント、OHP、スライド、ビデオの視聴覚機器を駆使し、配布資料を時には利用しながら行っていく。 授業到達目標：火山の定義・実際、および火山災害の種類と内容の理解を基礎として、雲仙火山災害をケーススタディに、火山災害の特徴、人間や生物・自然環境への影響、火山災害への対策と復興などを取り上げ、それぞれの理解を深める。			
授業内容(概要)/授業内容(毎週毎の授業内容を含む) 授業内容(概要) 火山とは何かの定義から始め、世界と日本の火山の実際を知った後、火山災害の種類と内容を学ぶ。これらを基礎知識として、ケーススタディとして、長崎県の災害史上最大規模の自然災害の一つとなった、雲仙火山災害を取り上げる。この火山災害が、水産業や生物、火山植生、子供たち、人々の健康などへ、どのような影響を与えたかを学び、火山災害からどのようにして復旧したか、また復興がなされたかを知る。火山には、これらの陰の面としての災害の一方に、温泉・景観などの光の面も持つことから、火山の活用についても触れる。これら授業の間に、地球温暖化とも関係する、火山諸島ガラパゴスのなりたちや生物進化、生物の生息状況などを話題提供として授業する。 第1回 4/10 火山とは・1990-95年雲仙普賢岳噴火(馬越) 第2回 4/17 火山災害の種類と内容(後藤(惠)) 第3回 4/24 水産業への影響(その1)(高山) 第4回 5/1 水産業への影響(その2)(高山) 第5回 5/8 子供たちへの影響(その1)(小原) 第6回 5/15 子供たちへの影響(その2)(小原) 第7回 5/22 植生の回復(その1)(後藤(健)) 第8回 5/29 植生の回復(その2)(後藤(健)) 第9回 6/5 火山諸島ガラパゴス(松岡) 第10回 6/12 健康への影響(その1)(太田) 第11回 6/19 健康への影響(その2)(太田) 第12回 6/26 火山災害からの復旧・復興(その1)(高橋) 第13回 7/3 火山災害からの復旧・復興(その2)(高橋) 第14回 7/10 火山の活用(後藤(惠)) 第15回 7/17 授業の総括(馬越)			
キーワード	火山, 火山災害, 雲仙火山災害, 生物・植生, 水産業, 子供・健康, 復旧・復興		
教科書・教材・参考書	テキスト：長崎大学「火山と災害」教育研究グループ編著：「火山 - 雲仙普賢岳がもたらしたもの - 」長崎出島文庫(全国図書館協会優良図書) 教材：配布資料 参考書：長崎新聞社・後藤惠之輔：「復興の「教訓」 - 「普賢岳」からよみがえった10年」小学館		
成績評価の方法・基準等	毎回提出のレポートによって成績評価をおこなう。 レポートには、講義の概要とコメントを書くが、時には指示により、講義概要の代わりに宿題が出されることがある。		
受講要件(履修条件)	なし		
本科目の位置づけ / 学習・教育目標			
備考(準備学習等)	世界と日本には多くの火山が分布すること、いったん火山災害が起きれば広域、長期に及んだり、多数の死者を出したりすること、などから、日ごろから新聞・テレビのニュースに気をつけること。		